

林あそび

けやの森学園幼稚園（埼玉県狭山市）

自然の遊び～林あそび

平成16年度の取り組みとして毎週月曜日と水曜日、園からバスで10分ほどの場所にある「平地林」へ出かけています。まわりには小川が流れ起伏に富んだ1万坪という広大な林。縁あってお借りしている林です。数十年前には、杉や檜に覆われていた林ですが、現在は明るく見通しの良い林です。春には、イチリンソウやチゴユリなどの花があちこちに見られ、私たちの心を和ませてくれます。朽ちた樹を持ち上げると、その下には大きなカブトムシの幼虫がいたり、鳥のさえずりが聞こえてきたり、ありのままの自然の中に生物の息づかみを感じられます。以下は林の記録を日記風にまとめ、ピックアップしたものです。

林あそびのねらい

子どもが林の中で発見したものや出会ったことから、遊びを繰り広げていくことの楽しさを味わう。

保育者は、子どもたちが林の中で何を見、何を感じ、何を学んでいくのかを温かく（しかし危険が無いよう厳しく）見守り、共に興味を持って、言葉を交わしながら遊びを深めたり、子ども同士の交換を促し、遊びの展開を後押しする。

* [けやの森日記とは]

本園では、活動の折々に感じたことを「けやの森日記」として書き残しています。そこに保育者が言葉を添えながら、記録としてファイルしています。印象に残った事象のすぐ後には子どもたちの表現も生き生きとしていて、「この子はこう感じたんだな」と純粋な感性に心打たれるものがあります。またそこから次には、「こうしたらどう感じるかな」「もっとこの部分を一緒に探ってみよう」等と継続的かつ発展的な保育へとステップを踏んでいます。そのような部分もこの事例の中にも織り交ぜてまとめてみました。

1 「はじめての林を探検しよう」～林の空気の違い、広さ、気持ちよさを身体で感じ取る～

4月23日

年長A子 「ウワァー、森みたい！」
 保育者 「おいしいねえ！」と深呼吸
 年長N子 「フウ～」と息をもらす
 年長S子 「なんだか寒く感じるよ」
 保育者 「アーほんとだね。けやの森と違うね。歩くとどんな感じ？」
 年長H男 「フカフカしてるよ」
 年長W男 「軟らかいねえ」
 *遊んでもよい範囲をしめすため、ペア同士で手をつなぎ、危険なことを伝えながら林の中を歩いてみる。

年長T男 「アッ カエルだ」
 年長Y男 「見せてー、持ちたい」
 年長T男 「持って帰りたい」
 保育者 「持って帰ってどうするの？」
 年長T男 「飼うの」
 保育者 「どうやって飼うの？」
 年長T男 「……………」
 年長K男 「だめだよ。かわいそうじゃない」
 保育者 「どうして、かわいそうなの？」
 年長T男 「だって、死んじゃうかもしれないよ、林がおうちなんだから！」
 保育者 「そうだね、きちんと飼ってあげられればいいけど。林がおうちだよ。次に来た時にまた遊ぼうよ」



- ・幼稚園児も保育園児も登園後、長袖長ズボンに着替える。襟元におそろいのピンクのバンダナを巻く。
- ・子どもたちの目はキョロキョロしているが、視線は下に集中していた。
- ・年少児は、軟らかい土に足をとられ、歩きづらそうだった。
- ・自然に子どもたちの大きな輪ができ、みんなで年長児のやりとりを聞いた。

- ・1つの事象に対してどうしたらいいかということ子どもたち同士で話し合うことによって、子ども自身で納得することができる。

子どもたちと決めた林あそびの約束

- ・先生の見えるところで遊ぶ。
- ・笛が鳴ったら集合する。
- ・むやみに草花を取らない。
- ・生き物は持って帰らない。
- ・オシッコを我慢しない。
- ・ケンカしない。ケンカしてもすぐ仲直りする。

2 「雨の中の林を探検しよう」～いつもの林と雨の林との違いを感じとる～

6月9日 雨

- ・あえて雨の日に年長児だけで出かけてみた。空の暗さと雨の重みで木が下方に垂れているため、視覚的に「暗さ」が感じられた。木が揺れて雫が音を立てて落ちてきたりした。その様子を子どもたちが不思議そうに見上げていたのが印象的だった。
- ・園には常時、雨ガッパを置いている。それをバスの中で着て、他にタオルや大きなビニール袋、着替えを持って出かけて行くようにしている。



「雨だけど、何かいるかなー？」
 今日の林は何だかこわい！

3 「青柳保育園のお友だちと遊ぼう」～他の保育園の子どもたちに林をどのように案内できるか～

6月14日

- ・ 昨年、青柳保育園の先生が来園された時「子どもたち同士も仲良くなれるといいですね」と言ったことがきっかけとなり、今回実現した。「林の遊びの楽しさを知ってもらいたい。もっとたくさんの交流を持ちたい」という願いを含んでいる。
- ・ この日に備えて楽しく遊ぶための話し合いをクラスで重ねてきた。園バスが友だちを迎えに行っている間にワクワクしながら即席でトイレ（3~4本の木にシートをまいて真ん中に穴をほる）を作ったり、歌を歌ったり準備を整え気分が高まってきた。
- ・ 青柳保育園の子どもたちはバスに乗ったとたん、「虫いる？木は何本あるの？蛇いない？大きい木ある？動物いる？」と矢継ぎ早に質問が飛び交い、元気が良く待ち通しかつた日々や様子が手に取るようにわかった。
- ・ 見るもの全て珍しく、不思議に思ったことを質問したり、それに答えたりとお互いの刺激になっていた。
- ・ 子ども同士だけでなく、けやの森の子どもと他の園の保育者との関わりなど。組み合わせによって学びも多いことがわかった。



4 「台風の後の林はどんな林かな？」～いろいろな状態の林を知ろう、そこから考えることは何かな～ 6月23日

年長 T 男 「この前来た時と違うね」
 保育者 「どこが違う？」
 年少 Y 男 「葉っぱがいっぱい落ちてる」
 年長 M 男 「木もいっぱい落ちてる。
あそこのはすごく大きいよ」
 年長 W 男 「台風だったからだよ、
風が吹いたからだよね、先生」
 年長 Y 男 「これじゃ、邪魔で走れないよ！」
 保育者 「ネッ、どうする？」
 年長 A 子 「掃除したらいいんじゃない」
 保育者 「いい考えだね！みんなはどう思う？」
 年長 T 男 「木を集めたり、葉っぱ拾ったりしようよ」
 保育者 「ではみんなで掃除しよう！拾ったものはあのくぼみに捨ててね、どうしてかわかる？」
 年長 W 男 「ウン、林を平らにするんでしょ」
 保育者 「そう、よく知ってるね。へこんでいる所に枝をおいていくとそこがだんだん高くなってくぼみが無くなるんだよね、そうするとまた走ったり、跳んだりして遊ぶことができるよね」

- ・ 普段は全員で林に行くところ今日は年少児と年長児のみで林へ出かけた。この日年中児は園でキャンプの「夢みる枕」の作製をしていた。台風に見舞われた昨日とうって変わって好天になったので恐怖心もなくすがすがしい気持ちだった。
- ・ メンバーが違うことも新鮮に感じられたと思う。
- ・ 「自分たちの林」という意識が芽生え、自分たちでできることを考え、できる範囲で行い、快適に過ごす手だてを工夫できるようになってきた。



こうして1学期は、全15回の「林あそび」を行うことができた。

初めて行く林に「怖くて保育者を求めて泣くだろう」と考えていたが、予想外にゆったりと心地よく過ごすことができ、自然の力を実感した。虫を探すことや、木の実を拾ったりすることから林を見つめ、そこから自然の営みやしくみについての学びを広げることができた。

みどころ

みんなで遊びに行く林での遊びは、楽しみな時間であつたに違いありません。初めて行った時、期待感と緊張感をもって林の中でたたくみ、「森みたい」と見て感じ「おいしいね」と空気（味わい）を感じ「フカフカしてるよ」と感触を表している子どもたちを、保育者はしっかりと受け止めています。そして、一人一人が自分の思いや気付きに応じて行動し、そのなかで、起こった困難や話題をもとに「林あそびの約束」ができました。その約束から、この林を大切にしようという思いが伝わってきます。雨の日にも台風の翌日にも出かけていって、様々に感じたことや気付いたことを友達と共有できたことは、大変貴重な体験です。また、不思議に思ったことを質問したり、それに答えたりとお互いの刺激になった保育園との交流を通して、子ども同士だけでなく、けやの森の子どもと他の園の保育者との関わりなど組み合わせによって学びも多いことが分かり、交流の効果も見出されています。虫や草木とのかかわりだけでなく、自然の力や自然の営みを感じ、学びを広げることもできました。台風の後の掃除をしたくなるほどに大切な場所だと、子どもたちみんなが認識できるような、充実した活動が積み重ねられたことが分かります。